

研究・調査報告書

報告書番号	担当
104	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Prevalence of sleep apnea in HRH Princess Maha Chakri Srinthorn Medical Center, Thailand. タイ国 Maha Chakri Srinthorn 妃殿下病院での閉塞性睡眠時無呼吸症候群有病率	
執筆者	
Neruntarat C, Chantapant S.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Sleep Breath. 2011 Dec;15(4):641-8	
キーワード	
閉塞性睡眠時無呼吸、閉塞性睡眠時無呼吸症候群、有病率、タイ国	
要旨	
目的： 閉塞性睡眠時無呼吸症候群の有病率に関する研究の多くは西洋で行われ、アジアでは数が少なく、タイ国においては皆無である。本研究の目的はタイ国成人での閉塞性睡眠時無呼吸症候群有病率とその関連因子について検討することにある。	
方法： 本研究はタイ中央部の一都市病院で行われ、データ収集がなされた。対象にはオフィス従業員と病院に診察に訪れた人々が含まれる。	
結果： 追跡開始時対象の 2,685 人の中から無作為に 199 人を抽出し、終夜睡眠ポリグラフ検査にて終夜検査を行い閉塞性睡眠時無呼吸と閉塞性睡眠時無呼吸症候群の有病率を求めた。習慣性いびきは 26.4%にあった。1 時間あたりの無呼吸と低呼吸の回数(AHI)>5 を閉塞性睡眠時無呼吸としたときその有病率は 11.4%であった。閉塞性睡眠時無呼吸を AHI>5 と昼間の過度の眠気があるときと定義するとその有病率は 4.4%であった。閉塞性睡眠時無呼吸および閉塞性睡眠時無呼吸症候群の有病率は男性でそれぞれ 15.4%と 4.8%であり、女性で 6.3%と 1.9%であった。ロジスティック多変量解析を行うと男性、BMI、年齢、高血圧、飲酒量、喫煙が閉塞性睡眠時無呼吸の独立寄与因子であった。	
結論： 本研究で閉塞性睡眠時無呼吸はタイ国成人において西洋諸国や他のアジア諸国と同様に有病率が高いことが判明した。本疾患の理解と治療が合併症低下にとって不可欠である。	